

平成29年度 熊本市療育支援ネットワーク会議 代表者会議

日時：平成30年1月12日（金）18:00～20:00

場所：熊本市総合保健福祉センター1階

次第

- 1 開会
- 2 熊本市挨拶
- 3 代表者会議構成メンバー紹介
- 4 議事
 - (1) 会議のテーマ「地域発達支援ネットワークの構築と充実」について
 - (2) その他
- 5 閉会

出席委員 菊池委員、園田委員、丸内委員、勝本委員、碩川委員、井上委員、伊藤委員、江原委員、森川委員、大谷委員、高田委員

事務局 田中障がい者支援部長、木村子ども発達支援センター所長、神永障がい保健福祉課課長、田中健康づくり推進課技術主幹、村上青少年教育課主幹、乃美子ども支援課総合子育て支援センター所長、東野中央区保健子ども課主査、内田西区保健子ども課技術主幹、甲斐南区保健子ども課技術主幹、木庭北区保健子ども課技術主幹、村尾保育幼稚園課主幹、幅熊本市発達障がい者支援センター所長

欠席 大城委員、清田委員

傍聴 1名

- 1 開会
(事務局)
略

- 2 熊本市挨拶
(部長)
略

- 3 代表者会議構成メンバー紹介
(事務局)
略

- 4 議事
 - (1) 会議のテーマ「地域発達支援ネットワークの構築と充実」について
(会長)

皆さんこんばんは。この「熊本市療育支援ネットワーク会議」は年に1回の会合です。昨年度の会合では、テーマにあります「地域発達支援ネットワークの構築と充実」について、各区における状況であるとか、取り組みの内容、あるいはそこから上がってくる課題を出していただきました。前回の議事録等を見ていただければ思い出せるかと思いますが、その区の状況によって取り組みの内容がかなり違っていました。それからちょうど一年が経ちまして、西区あるいは中央区の方の取り組みが進みつつあります。今日はそういったところの現状を報告いただきまして、これからのネットワークを充実させていくためにはどのようなことが必要なのか、委員の皆さんから忌憚のないご意見をいただければと思っております。

それでは、議事の1番目「地域発達支援ネットワークの構築と充実」について、区ごとに地域発達支援ネッ

トワークを作り動かすためにはどうすればよいか、前回は追いかける形で進めていきたいと思っておりますので、地域ごとに現状と課題についてお話いただければと思います。席次表では、北、西、中央区、南、東と分かれています。北、東、南、のちに中央、西の順番にすると話しやすいただろうと思います。では、まずは北ネットから今年度の動きや気づかれています課題をお知らせいただければと思います。それでは園田先生から、まずよろしいでしょうか。

(委員)

北ネットですけれども10年目を迎えました。10年目になると、1年間に実施していく事業のパターンが決まってくるので、そんなに苦にならずに継続していくことができています。

北ネットはそもそも支援者ネットとして立ち上がりました。大きな柱が2つあり、1つが巡回相談、もう1つが研修会です。巡回相談というのは、3つの子育て支援センターを使いまして、北ネットに関わる保健師さんや子ども発達支援センターのスタッフに来ていただき、毎月巡回しながら、発達障がいの発見やお母さんたちへのアドバイス、できる時は療育に結び付けていくような場として設けております。5月から始めまして、3月までに3箇所を順番にやっています。西里の子育て支援センター、清水の子育て支援センター、あゆみ保育園の子育て支援センターを使っています。利用されるお子様方は0歳、1歳、2歳頃で、育てにくいなどか、これどうしたらいいんだろうとかいうようなご相談に乗り、お母さんの悩みが深い場合は、保健師さんと一緒になって、どういうふうに支えていくかを考えます。

それからもう1つの大きな柱は、研修会ですけれども、今年度も11月に1回目、2回目は2月に行いますが、1回目は支援者のスキルを上げるための研修と位置づけておりまして、2回目の方が直接移行支援に関する情報の共有、グループワークを中心とした研修を行うこととしています。1回目については、11月17日に行い、「ことばの教室」がどういうところで、どういうことを行っている、どういう子どもが対象になっているのかなど、具体的などころを知りたいということで、菱形小学校の城野先生を講師にお招きしました。参加者は78名で、実際にはキャンセルの部分もあったんですけれども、80名を超える応募があったということで、ニーズには合っていたのかなと思います。それから2回目は、今日打ち合わせをやっていたのですけれども、移行支援について情報共有した後、校区ごとに分かれて情報交換するグループワークを行う形でいこうかと考えています。

北ネットでは、研修会について、できるだけネットワーク内の人材を用いること、それから北ネットの中にある事業所の力を借りることで、お金をかけずに実施していくことを大切にしまして、今回も北ネット内の小学校の先生を講師にお招きして行ったということでもあります。2回目については、2月の中旬頃行いますが、ここについても放課後等デイとか事業所からも参加が多いですので、実際に移行支援の時どのようにやっているかや、それぞれ保育園、幼稚園から、事業所から移行支援について報告をしてもらいつつ、皆でその後の校区ごとの顔を合わせた形で情報交換していくということで予定しております。

このように、北ネットは、支援者がお互いの力を借りながら、それぞれのスキルを高め、より良いネットワークを作っていくということで行っております。今年もたくさんの方に参加してもらっていただいておりますので、10年を向かえ、私たちがやってきて良かったなと考えているところです。以上です。

(会長)

ありがとうございました。今の報告に対してご質問とかありますでしょうか。私の方から一点いいですか。研修会の参加者で、地域内の事業所とか、学校の先生とか、園の先生とかたくさんいらっしゃるというような話ですが、最近は事業所が一気に増えてきつつある感じがあります。新しく立ち上がった事業所の方々にもお声かけはされる訳でしょうか。そういった実情はどうなのでしょう。

(委員)

研修会を行う場合、案内状を配布する時に、熊本市のホームページから北区内の事業所を全て洗い出してその都度名簿を作ります。それを基に、新しい事業所には直接お電話をして、こういうことをやっているんだけど研修会に参加されませんかと呼びかけをすると、大抵参加して下さいます。小学校、幼稚園、保育園についてはもう10年取り組んでいますので、大体来られる所、来られる先生も半分位は毎度決まっています。事業所については、テーマによって違いますが、今年の「ことばの教室」について、特にどういうことをやっているんだろう、どういうふうに連携支援すればいいんだろうといったこともあったと思いますが、放課後等デイの参加がとても多かったです。

(会長)

ありがとうございます。最近は、様々な事業所が立ち上がっています。ネットから外れないように働きかけているということですね。

(委員)

はい。事業所をどういう人がやっているのか、私たちが知りたいというのもあって、まずは電話を掛け、来ていただいて、必要な時には皆さんの前で「今度新しくできた事業所ですよ」とご紹介させていただきます。そうやってお互いに知っているということが、放課後等デイ等は、特に質を担保するために有効なことではないかと思い、積極的にお声かけはするようにしています。

(会長)

ありがとうございました。伊藤委員は北区の方に入っていらっしゃいますけれども、のちほどご発言いただければと思いますので、よろしく願いいたします。それでは続いて東ネットの方にお話いただければと思います。

(委員)

東ネットの会長と書いてあるんですが、なんかちょっと違うかなと思うのですが、丸内です。よろしく願いいたします。座ったまま話をさせていただきます。北ネットのお話を聞いていて、ちょっと後でまとめて、東ネットに何が足りないのか、昨日会議があったばかりなのですが、それもお話ができればと思います。

東ネットは平成22年から始まって、7年目になりました。当初から大きな3本柱を立てております。まず1点目が、スムーズな移行支援のための関係機関の連携システム作りということで、小学校へ行く時の保育園、幼稚園からの就学支援シートを東ネットで作りました。それから2番目が支援者育成ということで、主に研修会の実施ということになっています。3番目が保護者座談会の開催ですね。北ネットと違って、最初の起こりのところが支援者だけではなく保護者の方が結構力を持っていらしゃったので、そういう方を含めて始めたところで、3本の柱で今までやってきました。

実際に現在はどのようになっているのかというと、就学支援シートについては、使われて広がっていったかなと思いますが、うちの保護者さんにも聞いたのですが、今はあまり使われなくなってきたようです。メリットがはっきりしないというようなことで、使って一生懸命活かすために学校で頑張られているところもたくさんあると思うんですが、これについても今後は整理していかないといけないかなと思っております。

それから、支援者育成については、「笑顔いきいき特別支援教育推進事業ブロック研修会」と東ネットがタイアップした形になって、だいたい毎年1回開催しております。結構大きな会になるんですが、今年度は参加者が68名で、8月18日にやりました。このときは、日吉小学校の先生に保護者とチームを組もうということで、「保護者の思いに寄り添う相談支援のあり方」ということで色々な所から参加いただいています。

もう1つ保護者座談会ということで、保護者の方が中心になって、毎回大体20名ぐらいの参加ということで、年に3回開催しています。研修の後は、自由に話しをするということで、「りらくまカフェ」というふうな名称をつけています。今年度は、6月に児童発達支援事業所ひまわりクラブ先生に「明日から使える子育てのコツ」、2回目が9月に託麻西小学校の先生に「特別支援学級での支援の実際について」、3回目の予定で2月に私が「ことばとコミュニケーションについて」ということでお話することになっています。だいたい、毎回決まった方の参加のようで、そこが広がっていかないのかなと思っています。

北ネットとの違いは、昨日も東ネットで話したのですが、誰がどういうふうに引っ張っていくのかということが難しいところかなと思っています。それから、これも昨日の話題ですけども、事業所が東区はとて増えています。そういう事業所が増えてきたことに対して、どこまでネットが関わっていけるのか、どういう連携作りをしていったらよいのかというようなことです。

それともう1つは、就学前のお子さんの支援の場も増えてきているのですが、何か発達に困難さがあると子育てにくいとなるとすぐ療育になってしまって、親御さんが自分の子どもと向き合う期間がない。どうしたらよいのかと考える間もなく、いくつかの事業所をまたがって利用し、送迎付きだと何をしているんだろうと子どもを理解する時間もなくて過ぎてしまうというのも散見されます。うちも今年の募集をしたら1人で5ヶ所も行っている方もいらしゃいます。本当に子どもさんが、月、火、水、木、金、土という感じで通っていて、果たしてそれが本当に良いのかという話が出ました。

東ネットとは言っても、誰かが責任を持ってやるということが難しくなっています。児童発達支援センターがありますが、どこかに拠点を置かないとなかなか難しいのかなという話もでました。あとは、次年度以降にどういったことをするかということ、やっぱり保護者座談会というのは大事ではないかなというところではあります。

それと、大きな研修会をするととてもエネルギーを使ってやった感はありますが、実施したあとに何が残るのかということになるので、研修の講師もネットの中で調達していきながら、もう少し小規模な研修会をやっていったらいいのではないかとというようなことが出ました。

それと先ほど言いましたけれども、就学支援シートをもう少し有効活用できる方法を考えていくということで、現状と課題ということで、以上になります。

(会長)

はい、ありがとうございました。では、続いて、補足になるかもしれませんが、森川委員から何かあればお願いします。

(委員)

昨年、東には会長から研修機能が弱いという話があって、どういうことをすると、研修機能があると言えるのかなと考えていました。東町小学校を会場にして、第1日曜日の午前中、この日は部活をしてはならないという日なので、4月から1月まで平均8名ほどの参加なのですが、研修会を続けています。これが実態があるならば文書で出せるのですが、今はロコミでできたくらいの会です。多分、特別支援学級の担任で経験の浅い先生方はたくさん増えていらっしゃるって、どこかで学びたいというニーズはあると思います。来年うちの校長先生が代わるかもしれないので、引き続きうちでできるかは分かりませんが、何らかの形で特別支援学級の学習会というのを計画していきたいと思っています。

それと、この前は茨城の日立に行きました。日立支援学校の先生が、日立では支援学校も新しい先生方が次々に入ってくるので、その方々向けの研修というのを何コマか実施しているものを、地域の小学校、中学校の支援学級の先生、特別支援教育について学びたい先生に案内を出しているそうです。それはお金がかからないし、何かそれを阻むものがなければ、とても良い取り組みだなと話を聞きながら思いました。

(会長)

ありがとうございました。特に教育現場の特別支援学級の先生方の研修ということで、提言というか、現状ということだと思います。では、続いて南ネットからお願いします。

(委員)

こんにちは。済生会なでしこ園の勝本と申します。年度の途中で元代表が任を降りられたということで、急遽、私が南ネットの代表ということになりました。それが、南ネットの課題を象徴していると個人的には思っています。

南ネットは目的が大きく3つありまして、子どもと保護者が安心して生活できる環境作りや、身近なところで相談できる場を作って発達それから子育て支援の充実。そして、南の地域の支援者の相互の交流と資質の向上です。

平成21年の6月に地域の保護者の方、地域の療育施設、それから保育所等の支援者の有志が集まって準備会を作られ、その中で南の地域のネットワークのあり方について定例会を実施されました。その後は、映画の上映会や茶話会などを通して、親さんたちの思いを出し合い、子育てについての悩みなどを話し合うような「親の集い」を、月に1回開催されています。平成25年には、「南部地域発達支援ネットワーク設立会議」を開催し、組織として形作られました。平成28年度は、地震の影響がありまして、活動もなかなか十分にできなかった部分もありますが、昨年度と今年度は、「運営会議」を定例で行いまして、どういうふうにこのネットワークを構築していったらいいのかというようなことを話し合っております。情報の集約や抽出するところまではいつもいくのですけれども、それから具体的な行動に移すところまでが、なかなか人の問題もありまして十分にいかなかったところでした。

しかし、今年度の8月に「啓発及び研修事業」ということで、「笑顔いきいき特別支援教育推進事業」との合同のブロック会議を開催しました。地域の療育に関わる事業所、それから教育機関、保育園、公立の幼稚園などにご参加いただき、顔の見えるネットワークの構築を目的に開催しました。南ネットからは、子ども発達支援センター、南区保健子ども課、南区にあります委託の相談支援事業所絆、放課後等デイ、なでしこ園などで、それぞれ行っている事業について説明をさせていただきました。その後は、学校の先生方と情報交換という形で会を進めていきました。学校の先生方には、どのように「通所受給者証」を取り、サービスを利用するのか知らなかったという方もいらっしゃいました。また、放課後等デイの方からは、実際に学校終わって、放課後等デイに行って、子ども達がどんな過ごし方をしているのかお話をいただきました。それは一事業所からの報告ではありましたが、具体的に活動を知ることができました。教育の現場にいて、相談支援も含めて、福祉の分

野についてほとんど知らなかったというような声がたくさん出まして、この合同ブロック会議を開催できたことは、とても有意義だったと思っております。この合同ブロック研修会につきましては、平成30年度も是非共同で開催していけたらなと思っております。また、顔の見えるということで、実際にうちから就学しているお子さんの件について、直接学校の先生とやり取りもできましたし、参加者へアンケートを取り、親さんへの支援をどういうふうな形で進めていくと良いかも情報収集することができました。やはり、親さんたちもお子さんたちが成長されるとニーズが変化してくる訳ですので、どこかに焦点を当ててということがなかなかやりづらいというところがありますが、この辺につきましては、学校の先生達とも意見交換をしながら、保護者さん向けの勉強会について検討していきたいと思っております。

最初にもお話しましたように、課題としてはやはり人の問題が一番です。なでしこ園は児童発達支援センターとして南区にございますので、それでこの南ネットにもお声をいただいたと思っておりますが、うちも異動もありますし、私も定年も近く、人が代わります。先ほど東ネットのほうから拠点というお話がありましたが、そもそも児童発達支援センターが拠点になりうるかというところです。なかなか組織上難しい問題もございます。

研修については、各ネットが工夫されていて、それぞれの地域性、特色のあることをしていると思えました。座談会とか、ネットの中で講師をお願いしてやってらっしゃるというようなお話もありました。南ネットとして、どういうふうな今後考えるかというのがありますが、なでしこ園としては、独自にかなり大きな研修会を年4回ほどやっております。これが南区だけに限らず、児発それから放課後等デイ、相談支援事業所、それから保育園の全てに案内を出しております。平成30年度からは、これに教育機関も加え、全部に案内を出すように計画しております。なでしこ園もお金が無い、細々としたところで、それでもこれだけの勉強会をやっているの、南ネットと上手くコラボしながら、勉強会を活かしていけないかなと個人的には思っています。なかなか体系的なネットワーク作りが、人が変わる毎にスタートから、次また人が代わったらスタートから、というようなところが心配です。2年目にして私の率直な感想であります。以上です。

(会長)

はい、ありがとうございました。何かご質問はありますでしょうか。今の南ネットの報告で「笑顔いきいき特別支援教育推進事業」と合同のブロック研修会を行って、東ネットもされたということですけども、前の大谷先生が所長だったときの会議の中でも「笑顔いきいき特別支援教育推進事業」と合せて行うことで、保育園や学校現場の移行支援にも繋がるのではないだろうかということもありました。「笑顔いきいき特別支援教育推進事業」は、学校の先生の参加がかなり多く、そうすると福祉と教育の壁はかなり取れてきたかなというご報告だったと思えます。

では、逆になでしこ園の研修会では、放課後等デイとか全事業所にお送りしたということでしたが、南ネット自体の研修会では、そこまでは案内を出しきれてないということでしょうか。

(勝本委員)

合同ブロック研修会では事業所の1ヶ所だけに参加をお願いしまして、他の事業所の方達にご案内しているということはないです。そこまではできませんでした。まずは、先生達に児童発達ってどういうものか、何をしているのかっていうのを知っていただくために、1ヶ所放課後等デイの管理者の方に来ていただいてご説明をしていただいたということです。全部の事業所を集めてとなると、かなり人数的にも多くなりますし、まだそこまでは行き着いていません。

(会長)

ありがとうございます。地域発達支援ネットワークがどこまでを対象にしていくのかについて、あまり議論していなかったかと思えました。つまり、教育や保育園、幼稚園、あと医療機関、そこにまた非常に数が増えている事業所など相当対象が広く、また数自体も増えるとなると、それを誰が一手にして動かしていくのかという根本的な問題が出てくるんだろうなと思えます。

他に質問とかないでしょうか。はい、それでは続きまして、中央ネットの動きについてご紹介いただければと思います。

(委員)

かねてより、大谷先生から宿題をいただいておりますので、皆ずっとここらへんに、肩に背負いながらやっております。

平成29年2月に初回の会議を行いまして、以降4月、7月、10月、11月、12月と計6回の会議を実施いたしまして、2月22日に研修会を行ってみようというところまでたどりつきました。委員は、慶徳小の

校長先生、白山小の校長先生、向山小の先生、それから帯山幼稚園、出水幼稚園、つばめさんくらぶの先生、行政からは子ども発達支援センターに入っていたいでやっています。細かいお互いの立場の中で事情というのがまず分からないので、今回は、実際に幼稚園、保育園から預かれたお子さんを見るにあたって、どういう情報を聞きたいのか、例えば、この子はどういう困り感があったんだろうとか、どういう援助をされていたのんだろうとか、何か学校で配慮しなければいけないこと伝えていただけないだろうとかですね。まずは、受け止める側の現状をまずご講話いただきまして、それについてグループワークを行ってみようという話になりました。

まだ、そこまでのことなのでどれだけ参加者がいらっしゃるかどうかは分からないのですが、小さな一歩を踏み出したところです。

(会長)

はい、ありがとうございます。では、中央ネットの今の動きについて何かご質問等ありますでしょうか。

今度2月に1回目の研修会をされる、企画されているということですけど、呼びかけは大体どれくらいのところまで呼びかけていらっしゃるのでしょうか。

(委員)

中央区です。

(委員)

小中、高校もですかね。小中学校と幼稚園、保育園です。

(事務局)

中央ネットを担当しております。その点に関しましては、小中学校と、就学に関しまして保育園、幼稚園、認定こども園さんを対象にしております。その他、中央区保健子ども課の保健師さんです。現状で言うと、その範囲で企画しております。

(会長)

児童発達支援事業所とか、放課後等デイサービスには声はかけないですか。

(委員)

現状としては、まずはどこまで声をかけるといいのかというところが見えてこないところと、議論の中にありましたのは、お子さんが通っていく場所というところで、中心になるところの先生方とのネットワークを作っていくほうが良いのではないかとということで、事業所さんの方は今のところ入っていないという状態です。12月に決まった段階ではありますので、そこまでの準備する時間と余裕が今のところないというところも現状としてはございます。

(会長)

はい、分かりました。ありがとうございました。他は、よろしいでしょうか。それでは、西区の動きについて報告いただければと思います。よろしく願います。

(委員)

失礼いたします。熊本かがやきの森支援学校の指導教諭をしております井上と申します。西区では、本年度8月に先ほどから出ておりますような「笑顔いきいき特別支援教育推進事業」を基にした、いわゆる合同ブロック会議、「西地区研修会」という名称で研修会を行いました。

昨年度のこの会議で思い出すのは、西区、中央区のネットが、まだ立ち上がってませんという話がありまして、ただその会議の中でも、そういうネットワークを作り上げる際に、いわゆる課題ですよね、難点というのをたくさん出されたのを覚えています。西区に所属してます白坪小学校の先生、それからパレットの先生がいらっしゃっていて、そこは私も含め重々分かっておったところだったんですが、去年の会議が終わってから、駐車場でこのメンバーと、子ども発達支援センターのお2人と、やろうかということになったのが第一歩であります。つまり、色々な課題がありますが、やはりどこかが、誰かが手を上げて、マンパワーで始めるしかないんじゃないかというようなところなんです。その時の目指すところは、年に1回の大きな研修会をやろうということで、先ほどから出ている「笑顔いきいき特別支援教育推進事業」を活用した大きな研修会をしようというところで始めました。

参加者としては、本校のかがやきの森支援学校が会場になりまして、本校の地域支援にあたる教員と、こちらにいらっしゃる高田さん、江原さんと「笑顔いきいき特別支援教育推進事業」の拠点校の担当の方、西区保健子ども課の富田さん、福祉課の芥川さんと、子ども発達支援センターの担当の方々がいわゆる事務局的な動

きをして、平成29年の5月、6月、7月と、8月の研修会を立ち上げるための準備会をしました。当日は8月1日の午後に行いました。この研修会の形は、南ネットの合同ブロック研修会を参考にさせていただいたところです。

最初はいろんなご挨拶があった後、各機関から約10分程度お話をさせていただきました。例えば市教委のスクールソーシャルワーカーの赤星さん、今日ご出席の高田さん、志成館高等学院の清田先生、相談支援事業所シャイニングの谷口さん、医療の方で福田病院の熊本県地域周産期母子医療センター森さんの5人にお話をうかがいました。最初の回なので、何かにテーマを絞るといよりは、色々な方面の方に話をさせていただいて、参加の方々の知的好奇心と言いますか、そういうものに火をつけてもらおうというところが、1つの狙いだったと思います。そういう方々にお話をいただいて、それから、自由なフリートークをした後に、グループ協議ということで、これもテーマを手広く設定をいたしました。子どもへの具体的支援のあり方、移行支援についてとか、保護者支援のあり方、専門機関との連携について、進路に関する支援、早期からの地域連携など、もう考えられるだけのところをグループ協議ということで自由に話をするというようなことをやったところでございます。当日は100人近くの参加者がいました。初回としてはとても良かったのではないかなと思うのですが、先ほどからお話が出ていますように、これはとにかく第1回目、走り出し研修会であります。今後どうするかというところが一番大事なところかなと思います。まずその組織作り、先ほど申したようにマンパワーで始まっているところがありますので、いわゆる拠点となる機関、拠点となる人等をどういうふうに考えていけばいいのかというところが、最後に10月にまとめの会議を先ほどのメンバーでしましたが、やはりできませんでした。特に、教職員であり、区役所の方々は先ほどもでてるように、退職であり、転勤というのがありますので、ある意味何かの形、どこの機関がやりますというようなところがないと、例えば学校であれば校長先生の考えが変われば、もうしないよ、ということもなきにしもあらずというところもある。ですので、各ネットワークには会長さん、副会長さん等に当たる方々がいらっしゃる、そういう方々が、どういうふうに、我々がお呼びするというよりも、自然にいていただけるようになるかということを目指していかなければいけないと思っていますところではあります。

あと、その年に1回の大きな研修会だけではなく、その研修会というものを1つのきっかけにして、いろんなところで勉強会で広がるとか、そういうものがあるといいという話が出ました。例えば、手前味噌でなんなんですが、本校のほうで1ヶ月に1回、地域との勉強会という名称で、夜18時半から勉強会をやっています。うちの勉強会では、例えば文字であるとか、数であるとか、SSTの研修会をやっています。この西地区の研修会が終わってからは、もっとその中で出た問題というのを取り上げてやってみようとかですね。また、合同ブロック研修会の中で出たのは、保健師さんの仕事って一体どんなことをするのだというのが上がってきました。確かにそう言われると、私もきちんとしたお話ができるかといえませんができません。そこで、西区役所の保健師さんの担当の方にお話をさせていただきました。そういうふうな形で、小さな勉強会の中でもネットワークの1つの役割を果たしていけないかなというところではあります。

今後としてはですね、そういう組織作りの部分をどうやっていくかというのが課題であります。ただ、今年も同じように、まずは続けることが大事だと思いますので、今年、来年の目標にしてやっていきたいなというところではあります。以上です。

(会長)

はい、ありがとうございます。それでは、高田委員と江原委員は補足的なところで、是非何かあれば発言いただければと思います。では高田委員からお願いします。

(委員)

児童発達支援事業所パレットの高田と申します。よろしく申し上げます。研修会とか、会議を重ねる中で思ったのは、まずは顔が見えるところが一番だと思いますが、西区含め、各地区の事業所等に携わってきて、保育園、幼稚園、それぞれが子どもさんに関わって、親支援や子ども支援で困っているなというのが本当に大きな壁だなというのを感じました。このネットワークで何ができるかなと思ったときに、西地区で、この研修会を行っていく中で、そこに研修に集まって、いろんな先生や支援者が来て、誰か相談できる人が1人でも見つければいいなと個人的には思いました。考え方もそれぞれ違うかもしれないけれども、その中でこの人に困った時に相談できる相手が見つかるようなネットワークの中での組織作りであったり、人とのつながりができればいいなと思っていますところではあります。以上です。

(会長)

はい、ありがとうございます。じゃあ、江原委員からお願いします。

(委員)

私は小学校の方に勤めておりますけれども、うちの学校でも6人職員がいるのですけれども、放課後等デイサービスの職員の方に関しても、自分が担当している子どもが行っているデイサービスの職員は知っているけれども、全体を把握しているのは、多分私だけかもしれません。それぞれの学年のことに追われていまして、23人子どもさんが在籍して、5箇所の放課後等デイサービスを利用されているのですけれども、たった5箇所でも全利用者のその担当の方が分からない、顔が知れない。だから、私がない時にもしかしたら、間違っただけの方にお預けするようなことが起こりますよね。そういうことが、色んな学校でどんどん増えていて、それこそ相手をよく分からないで、どんなことを実際にしているのかも、本校でどんな一日を過ごしたのかどうかも分からないことが起こっているのかなど。放課後等デイサービスでも、学校との連絡帳があるところもあれば、まったくないところもあって、雑談をしてちゃんとその日の様子を聞いて行かれる所もあれば、そうでもなく、ただ預かりますと言っていかれるような所もあり、それぞれです。お互いにどこの誰先生ってということが分かっているような関係ができていくのは大事だと、今回のブロック研修会の時にも思いました。

先ほど井上先生がおっしゃったように、フリートークの時間があつたのですが、フリートークが苦手で、誰と話していいのかわからないとアンケートに上がっていました。実際に、その教員であっても、あるいは園の先生であつて人と関わる仕事であつても、繋ぐ場がないと、自ら繋がれない人が増えているのだというのを、保護者だけではなくて、私達の職業の者でもそうなのだと感じています。異動もあるし、もしかすると来年いないかもしれないけれども、なんとかその支援を繋げていきたいという思いだけは、関わっているメンバーは皆持っています。ただ、中心になる病院もない、あるいは大学だとかそういう大きな組織がない西地区の課題はありまして、本当に拠点となる場所、できれば公的なそういうものが欲しいと思っております。

(会長)

はい、ありがとうございました。では、西ネットの動きについてご質問等ありますでしょうか。去年に3人の熱い思いから始まったということですが、なかなか話を聞いていると力技ですね。その辺り、これを続けていくということになつても、マンパワーが必要で、いかに継続させていくかが課題なんだろうと思います。その研修会の参加者は、笑顔いきいきなので学校教員が主でしたか。他の方もいらしたのでしょうか。

(委員)

割合的に何割とは言えないですけれども、教員だけではなかつたです。放課後等デイサービスの方、福祉関係の方、区役所の方など多岐に亘つた形でおいでになつた。

(会長)

分かりました。ありがとうございます。他、よろしいでしょうか。それでは、5つのネットの所から報告をいただきましたので、全般的な事について、地域のネットワークのことについてご発言をいただいていない、お2人の委員の方にもご発言いただこうと思いますが、大谷委員の方からお願いいたします。

(委員)

皆様、こんばんは。託麻台リハビリテーション病院で働いております。2年前に子ども発達支援センター、市役所の方を退職いたしまして、また現場で医療に携わりながら、発達障がいを中心とした運動発達やコミュニケーションの課題など色んな課題を持った子ども達と、未熟児さん達の方から、特に福田病院や大学病院から、小さく産まれた子ども達がたくさん紹介されて、託麻台でリハビリを中心に支援をしているところです。お子さんの様子に合わせて、保護者をどういうふうにサポートしていくか、現場の中でも難しく感じておりました。子ども発達支援センターでの8年間の経験が色々あつて、地域で繋がっていく、あるいは親御さんたちに、託麻台でリハビリを受けながら療育に参加し、あるいは園の中で支援を受けていくことを、3ヶ月に1回か、4ヶ月に1回くらいの診察の中で、色んなお母さん達に、一人ひとりに丁寧に色んなことをお伝えをしていっている所ですが、今日のメインテーマであります、地域の中でどう支援の人たちのネットワークを作っていくかというところがなかなか難しかったところです。一箇所集中で、療育センターに所に子どもさんを紹介して、そちらで全部療育してもらおうと、確かに助かる部分もあるけれども、地域の中で丁寧に支援者が顔が見える連携を築きながら、そして各区ごとに、支援者の方達が顔が見えるような連携、あるいは一緒に学ぶ場、そして地域の中の子どものさんと保護者を地域で支えていけるような熊本市独自のシステムということで、このネットワーク作りを進めてきたところです。北ネットが一番初めにあゆみを進めていただいて、園田先生、

肥後先生にも大変お世話になって、モデルの事業を考えていただきました。その後、東と南に何とか地域の支えの輪を作ってきたところです。それでも、まだ課題はございますので、人の問題、あるいは場所の問題などありますが、今日お話を聞かせていただいたところでは、かなり苦しみながらも、それぞれ皆様のご協力をいただきながら、地域の中で支援の輪が繋がっているなど、非常にうれしく思いました。

それと、中央と西についても、とにかくスタートしようということで、笑顔いきいきと、それから合同ブロック会からだと、少しスタートしやすいかということで、ご提案をさせていただきながら、皆さんの努力で進めていただいているところです。たくさん課題が山積しているところでもございますけれども、まずスタートすること、そしてできれば学校の先生を中心にというところもありますけれども、保育園、幼稚園、それから療育の人たち、様々な方達、あるいは他職種の方達も一緒に参加していただきながら、地域の中で、その地域に住んでおられる子どもさんと保護者の方達が、少しでも安心して生活できるようにとということが、目指すところではございますので、支援者の方達の研修と、顔の見える連携など、色んなキーワードがありますけれども、少しずつ進めていただければと思います。

私自身も、やっと医療現場の方に戻ってきたところですけど、これから、東や中央のネット方にも、少し勉強など一緒に関わらせていただきたいというふうにも思っているところです。また、西の方にもできれば顔を少し出したいと思っておりますので、まだ私自身もしなければならぬことが山積しておりますが、皆さんと一緒に少しずつでも一緒に足を進めながら、連携、あるいは勉強会を進めていけたらと考えているところです。

(会長)

ありがとうございました。では、続いて伊籾委員、お願いできますでしょうか。

(委員)

今日うかがって準備ができていなかったなど大変反省しております。年に1回ということで、次挽回できるのが来年ということなのでございますけれども、今日うかがいながら、北は恵まれているなどということをよく感じているところです。

まず、幼稚園や認定子ども園等の現状としては、今日のネットということに直接繋がらないことかと思えますけれども、内部的にはかなりスキルアップ、まあ研修会にも常に参加させていただいておまして、コーディネーターも殆ど全員いるという状況で、今年度から名前を載せないというふうになるくらい全部設置しているような状況で、全体的にはかなり充実しているのだらうと。また、その次年度からキャリアアップの件もありまして、こういった分野の研修会もさらに充実させていって、リーダーを養成することになっておりますので、そういう意味では、そういった人材の活用、先ほど場所の問題もあったと思いますが、そういった施設の問題も、是非活用いただけたら良いかなと考えております。やはり、まずはそこに来ることがありますので、ワンストップである程度できるためにも、そういった施設の活用を是非していただけたらなというところがあります。

それから、ここ数年ずっとやっていますが、保護者の方々への啓発や研修の機会もかなり設けております。今年も10月と2月にしておりますけれども、現場へ行ったりとか、各市町村の取り組み等を勉強したりとか、そういったものもやっております。悲しいことに、子どもが入ってくると、自分に関わる人が減っているのではないかと、私の払っているお金がそっちに回っているのではないかと、そういう発想が出てきてしまうところもやっぱりあります。そういう意味では、きちんとした啓発活動を行うことが重要だということで、保護者の方々にも現場のみならず、子ども達の発達について研修する場をたくさん設けていっているところです。PTAとの連携が私達共にも強いものですから、そういった意味でも、研修会をそこで繋げていくために、PTAの方も活用いただけたらと思っているところです。

それから、政令市との繋がりもたくさん私共ありますので、他の所の支援だったり、ネットワークの連携の問題であっても情報提供させていただけたらと考えているところです。今、私達の地区でも小規模保育などが増えていたりとか、来年度までの問題でいくと、企業主導型も多分一気に増えてくる状況があったり、色々療育機関もたくさん増えてきていますが、今のところで考え方に開きがありまして、そういう意味でも、先ほどから出ていますけれども、全てが繋がることの重要性をとて今感じているところです。そういったところに、こぼれがないように、こういった繋ぐ機会とか、連絡するのも全部にいくような形にさせていただけるといいのかなと思います。本当にありがたいことに、熊本市、特に北区の小学校は、とても丁寧に繋げていただきまして、小学校も、専門家や専門機関等も丁寧にやれていて、大変感謝して、それが意味づけてきていますが、私達は色んな広域で利用する所もありまして、そこに行くと、貴方の所から来る園児数少ないからや

らないとか言われたりして、とつても切ない思いをすることがあります。そういった意味では、熊本市、特に北区とても充実してありがたいなと思っているところです。量はどんどん進んでいますが、質の方でも上がっていくように、繋がりを持たせたらということと、是非施設や人材を活用していただけたらと思います。以上です。

(会長)

はい、ありがとうございました。それでは、一応、全委員にご発言いただきました。ここからまた、それぞれの委員からそれぞれの報告を聞いていただいて、お感じになられたことであるとか、あるいはこういった方向性が考えられるのではないかとといったようなことについて、忌憚のないご意見をいただけたらと思いますが、今回のテーマとしましては、「地域発達支援ネットワークの構築と充実」ということでしたけれども、とりあえず構築ということに関しては、かなり進みつつあるのかなど。ただ、これがいかに充実していくか、特に立ち上げたばかりの所が、どういうふうに継続していけばいいのかといった話があったかと思いますが、特に先行している、例えば北、あるいは東、南の所から、こういったやり方が考えられるのではないかとといったことか、出していただければと思いますが、園田委員いかがでしょうか。

(委員)

立ち上げの時点から、継続していくためにはどういう組織と戦略が必要かということ随分話し合いました。単純に考えると、お金がかからないこと、フットワークを軽くできるためにはどうするかということ、負担にならないことで考えました。お金をかけないというのは、さっきも言いましたけれども、北ネット内の人材を活用することで一番節約できましたし、負担にならないという意味では、あまり多くのことをやらない。単純に巡回相談と研修会の2つだけ事業を立ち上げて、後は話し合いながら、テーマはこういうふうにしましようとかいうのを委員の皆様の意見を聞きながらやると。組織をしっかりとすること、役割分担を熊本市ときちんと取ること、継続するためにはあまり多くのことを望まずに、とにかく支援者同士の顔の見える距離で付き合い続けるためにはどうしたらいいかだけをシンプルに考えていくようにしています。それが、継続していく上であまり負担になっていないということなのかなと考えています。

(会長)

はい、ありがとうございました。巡回相談と研修会の開催ということですが、巡回相談は実際のところいかがでしたか。巡回相談をしているのは、実際北ネットだけなのですね。他で、カフェといった形で茶話会をやっている所もあるようですが、

(委員)

0歳、1歳、2歳くらいまでの、まだ幼稚園とかに入らない時点でのお母さん達の子育ての悩みを聞きながら、子育て支援センターの中で子ども達を遊ばせ、そしてお母さん方には少しミニ講話をして、例えば言葉の発達とか、運動機能の発達だったりとかという話しをしながら、その後個別にご相談を受けるということをやっているのですが、それこそ、前も言ったかもしれませんが、哺乳瓶が捨てられないですって言ったお母さんが2歳7ヶ月だったとか、そういう時に、どうして哺乳瓶が捨てられないんだろうってずっと何回も会って話を聞いていく内に、発達障がいがあるってということが分かっていったりとかですね。それから、夜泣きがひどいですとか、離乳食が進まないですという相談から、発達障がいの子どもを見つけていくとかは、0歳、1歳、2歳の巡回相談で良くできていっているかなと思います。場所が子育て支援センターですのでハードルは低くなりますし、お母さんも子どもを遊ばせにきたついでにご相談なさるということで、そこに地域の専門職と、子ども発達支援センターと、保健師さんが入りますので、色んな相談がでてきて、その後皆で話し合っ、関わった人達だけで密室で話し合っ、この子の場合は次の健診で丁寧に見ていこうとかですね、見落とさないようにしようとか、お母さんが少し鬱っぽくなっているから、もうちょっと声かけの時に注意しようとか、保健師さんに家庭訪問してもらおうとか、そういう連携も取れていくというところがとてもいい実績かなと思います。実際にその中から療育に進めていって子どももおりますし、家庭訪問に結びついた子どももいますし、それぞれに敷居の低い状態での発達相談ができていっているかなと思います。

(委員)

はい、ありがとうございます。東ネットの「りらくまカフェ」は、北ネットのやっている巡回相談とはどう違うのかということがあれば、丸内先生お願いします。

(委員)

「りらくまカフェ」は、こういうのがありますと告知して、そこにそれを目的にくる人たちです。ですので、

何かお探しの場合があるというところでは思っている方ではない方もいらっしゃるのですが、割とリピーターが多いという感じですね。それと巡回というのは、子育て支援センターを利用されている方達という、子どもの子育てに困っているのだけど、そういう何か障害があるっていうようなところはないかなと思うので、やっぱり、こう、来る人と来はしないけどそこら辺で、手軽なところを利用してというところの大きな違いはあるのかと。

(会長)

リピーターが多いってことで考えると、保護者同士の保護者会というか、ちょっと茶話会というか。

(委員)

そうですね。ただ、そこに必ず研修みたいなのを抱き合わせて、1時間はそういうふうにして、残りの1時間は、自由にこうグルーピングします。リーダーを配置して、色んな話をしてというふうにですね。どっちかというところですね、座談会です。

(会長)

北ネットでやっている巡回相談は、行くその相談員の先生、園田先生や今村先生など、定期的に同じ人が勤めて、研修的な、講話みたいなものをして、保護者からの相談がきたら、それにしっかり乗っていくという、そういうことできる方がいないといけないということですね。「りらくまカフェ」は、その講師は毎回変わる訳ですね。

(委員)

講師は毎回変わりますが、中心にやっている方は、保護者の方でいらっしゃいます。あとはもう保健師さんなどですね。

(会長)

そこでも、その人材の問題というのが出てきますね。他はどうですか。もう1つ、研修会のことについて。研修会は、どこもどうにかやっている、あるいはやるらしいということなのですけれども。研修会のあり方ということに関しては、どういう研修の形が、一番ネットワークとしての研修機能、顔が繋がるようになりやすいのか。先ほどの江原先生の話のように、単純にその研修を受けただけだと、受けて帰ってくるというだけで、仲間作りに繋がらないことも、恐らくあるのだと思います。そういう何か仕掛け的なものがあれば、いかがでしょうか。

(委員)

顔が見える距離でのネットワーク作りという時に、その共通のテーマは何だろうと考えたら、やっぱり子どもにとって、最大の福祉というふうに考えると、移行支援かなと思いました。移行支援をテーマにグループワークをやるというのを、毎年2回目の研修、2月に行う研修は移行支援をテーマに行いますけれども、そのときに校区ごとにグループを作って、7、8名ですが、楠小学校とか龍田小学校とか、校区でグループを作って、そこに子どもを送り出す幼稚園、保育園、療育施設と、小学校の先生をセットにすると、直接顔が見えて、しかもあそこの学校に電話するときは、この先生に電話すればいいのだというところまで関係作りを進めることができることが、凄く良い研修会だと考えています。年に1回は、直接先生たちが電話番号を交換したりできるような研修会をするようにしています。顔が見える距離でのネットワーク作りには、そういうのが、共通のテーマをもっているものとしていいのではないかなと思っています。

(会長)

はい。ありがとうございました。東ネットはどういう感じで進められたのでしょうか。キーポイントとしては、多分グループワークがあって、しかも実際に研修会が終わった後、関わる人たちを同じグループにして顔を繋いだというところがあると思いますが。

(委員)

前半の話の中では、保護者と一緒に関わる支援者から、個別の支援、教育支援計画を作るなど、学校での取り組みを紹介されていました。その後のグループワークは、小学校校区で分かれて、放課後デイの方は、学校ごとではないので、一番気になるところに入ってくださいと、仮に分けた表で書いていました。

(会長)

なるほど。今の北ネットでの話を聞きながら、研修のテーマはなるべく多くの人が参加しやすいようなテーマを組んで、それでそのできるかぎり参加者を増やしておいて、そして実際その中で講演や講話を聞くだけだったら、結局聞いて帰るだけになって顔繋ぎにはならないから、いかにそこでグループワークというか、実際

に関わるであろう可能性の高い人同士で組ませて、必然的に顔を合せるようなやり方が、顔の見えるネットワーク作りに繋がるのではないかと思ったところです。だから、そういった研修のその進め方とか内容を吟味して、ネットワークの充実というのを考えていくことはあるのかもしれないです。

西ネットでは、この前の夏はそういう意味ではどういったような仕掛けというか、形で行われたのですかね。
(委員)

仕掛け。そうですね。先ほども言ったようなテーマというのを、まずは、御案内の文章のところに出しておいて、私は参加者の申し込み用紙の中に、私はこのテーマのところグループワークの協議をやりますというような意思表示をしてもらって、というところではありました。まだ、第1回目でもあったので、こちらの事務局の方でこれも課題になるよね、これも話題としては皆で話がいっぱいではずだよっていうのを網羅したというような形でテーマを設定し、それからそれをどこに参加しますかというところで募ったというような形です。

(会長)

はい。分かりました。ありがとうございます。南ネットは、ブロックごとに情報交換の場を作ったというようなことを先ほど言われていましたが、同じような形ですか。

(委員)

そうですね。ブロックごとにフリートークし、その中で皆さんに共通するような課題ですとか、関心事が当然話し合われたということです。その前段では、10分ずつくらい各施設から業務の紹介をしてもらいました。あと、相談支援も、委託の相談支援の方からお話いただいたので、利用するにはどうしたらいいのかなどの点についてお話いただくとかですね。放課後デイからも来られたので、放課後デイと学校との関わりについてですね。また、グループワークでは、学校側もたくさん放課後デイとの事業所さんとの関わりを持っているのだけでも、実際に放課後デイの方から丁寧に話を聞いたことはない先生たちもいらっしゃったので、その放課後デイの管理者の方から話を聞かれるとかも多かったです。

ですので、それぞれの興味とか関心に合わせて、グループごとにフリートークというような形にして、何かあえてテーマを決めなかったというのがあります。

(会長)

そのフリートークは、各グループにファシリテイトする人が入っているのでしょうか。

(委員)

一応、こちら側の南ネットの運営委員と、「笑顔いきいき特別支援教育推進事業」のブロックの拠点校になってらっしゃる先生がいらっしゃいます。その先生たちと中心になって進めました。その先生たちを上手く振り分けました。

(会長)

「笑顔いきいき特別支援教育推進事業」の枠ですからですね。学校の先生方が、大体各ブロックにちゃんと参加されていますよね。なるほど。分かりました。

では、研修のあり方ということも、各区でそれぞれ工夫しながらされている現状かと思うのですが、フリートークだけで、じゃあ顔繋ぎでやって下さいというのなかなか難しいので、何にしてもファシリテイトの役割だとか、やはり重要ですよ。あるいはその移行支援シートについて、ちょっと実際に作業的なことを共通のテーマで与えてやっていくというのも手だろうしといったところかなと思いますけども、いかがでしょう。あと、実際これをどう継続していくかというところで、やっぱりマンパワー、リソースといったところの話があるかと思いますが、その点について何かご意見があられる方はいらっしゃいますでしょうか。

(委員)

やっぱり、そこが大きな課題かなと思います。私も昨日、会長はもう今年度限りということで。そうすると、じゃあ次は誰が会長するのかという話になっていきます。それから、本当に何かやる時に、皆さんボランティアです。自分の事業所で仕事をしている、それから学校で仕事をしているときに、誰がどの時間を割いていくのかですね。

少し話が水を差すようで申し訳ないのですが、国もあの平成33年度までに、各人口区域で児童発達支援センターを作りなさいという方針を出して、県はもう既にその動きが始まっていて、今各区域に5つくらいですよ、熊本県の場合はですね。どこかの地域療育センターとか、そういったところが児童発達支援センターに変わって行って、そこに今言ったような拠点となる場所を作って、しかもそこにある程度、「児童発達支

援センター機能強化事業」というのがあるんですけども、そういうもので人件費をつけるみたいことで、県はやっていこうとされています。ですので、各ネットでの取り組みは、これは本当に凄く大事なことなんですけれども、これを充実して、きちっとしていこうとすれば、やはり何らかの、そういったものの形づくりというものが必要なのかなというふうに思います。それと、ここが始まったときと、もう2、3年経つと、あの相談支援や放課後デイとかがたくさん出てくる状況で、全体をこのネットで見っていくというのは非常に難しいことです。特に、東区は人口が多いですし、事業所も多いのでですね。

それと例えば、あるAちゃんに関して相談支援事業所が担当者会議とか、支援者会議というのをされているのですが、うちはもうそれに行くのに指導時間を抜けて行かないといけないので難しいです。Aちゃんに関して、そういう相談支援事業所が主導権を持って、A事業所、B事業所、C事業所、学校の先生、医療機関とかを集められています。ただ、行けるかどうかというのは非常に難しいところです。

それとあと、「自立支援協議会」の相談支援の部会というのがあるので、そちらはそちらでいろいろ研修をされているみたいです。ただ、子どもの部会で一昨年ですか、放課後等デイサービスに関する意見を出したときに、事業所は増えてるのだけれども、やっぱりその研修をしていくとか、その質を担保していくということは、ある意味行政の責任でもあるというふうに思います。それを全部、ネットでやっていって下さいというのも少しおかしな話ですよ。

まとめていくと、今やってることで、良いところもたくさんあるんですけど、やはりきちんとした形で、場所と人というところを考えていく時期に来ているかなと。それと、ネットワークは顔の見えると言いますが、何か形の見えないものがないとなかなか動いていかないと思います。以上です。

(会長)

はい。ありがとうございました。なかなか難しい課題で、最終的には行政といいますか、その支援のところ、ある程度のネットワークの住み分け、役割分担は当然行いながらも、そのネットワークが円滑に動いていくための最低限の支援というか、下支えを行政でしていただかないと難しいかなということは、当然ある訳です。

じゃあ、各ネットで、どこが事務局といいますか、具体的にどこが実際に動かしますとなった時に、確かに児童発達支援センターが一番やりやすいのかなという気もするのですが、かといって、児童発達支援センターが抱えている業務も多すぎます。勝本先生とからすると、ちょっとそれは無理だと思われる訳でしょ。

(委員)

だから、やっぱりそこには、人とある程度の予算付けをしてもらわないとですね。

(委員)

当然、やっぱり児童発達支援センターの役割としてはあると思うんですね。地域の障がい児支援に関わる、本当に中核的な部分を求められていることは重々分かっています。でも、実態としてひばり園も三気の家、うちもそうだと思いますけど、そもそもその通園施設から、みなしで、児童発達支援センターになっている訳です。児童発達支援事業と、保育所等訪問支援事業もやっていて、もういっぱいいっぱいやってます。

それと、これは全然違うかもしれませんが、「障害児等療育支援事業」も熊本市から委託を受けてやってますが、すごく重要な部分ですけども、その辺にかかる費用を上手く支援センターに、財政的な保障を担保していただいて、なんか制度的に上手く使えないかなという気はしています。ただ、本来は児童発達支援センターとは、こういうものだという形、きちんとした位置づけをしていただかないと、他の児童発達支援事業所とも同じ並びになっているというか、そういうふうな見方をされているのかなと、個人的にはそういうふうに思っています。

(会長)

ありがとうございます。法改正でそういった通所施設が児童発達支援センターに変わったということですね。その地域のネットワークにも入ってくるんだと思うんですけど、それを統括するといいますか、支えていくのがセンターの役割で、事業所とはそこが違って、その業務というところを減らす訳にはいかないしといったところが、おそらくあるんじゃないかなと思います。難しいですね。経営的、運営的な側面も含めてというところになりますけども。リソース、人というところがなかなか懸案、加え、そうすると財政的な部分での下支えがという話になると、少しこの会議で話し合える範疇を超えてきている感じもこうするんですけども、忌憚らない意見をいただいてということで。いかがですかね。森川先生どうですか。

(委員)

昨日、東ネットがあったのですけれども、放課後等デイサービスの方がいらっしやっていて、話を聞けば、どんなことをしているのかということに困っているところもあるみたいですね。学童保育でも似たようなことがあって、夏休みに子どもの宿題を届けに行った時に、こんなのが分からないんですよ。で、こういうのを学校で使ってやっていると、それを渡すことができるようになる。だから、取り組む人材はいても、やり方がわからないという人たちがいて、共通な感じがします。岡山県で学童保育に作業療法士さんが入って、子どもへの関わりが分かって、変わったと注目されている取り組みがあります。もしかすると、学校で算数とか国語で特別支援でやっているような手立てを、放課後等デイの方に何らかで、研修というか、一緒に学びあう機会を持たたら良いと思います。なんとなく子守みたいになっていると話に聞くとですね。子どもたちには、学童保育にしても放課後デイにしても、今からも続いていくので、少しそこに、昨日の東ネットでも話がでていた「りらくまカフェ」でやったような、算数の教材の話をお聞きませんかみたいなのをしたらどうなるのかなみたいな話が出ていました。

(会長)

事業所は事業所でそれぞれの運営方針があるので、こういうことをやってくださいというふうに一元的に提供し、支援するのはなかなか難しいところがあると思います。学校とは違いますよね。学校は全て学校で同じ教育を提供できるよということ、それぞれの先生がスキルアップしているんですけれども。例えば、余暇支援型の放課後等デイもあれば、療育型もあるし、そういったところ分かります。それもどうですか、児童発達支援事業所の観点からいくとどういったところで対応されていますか。

(委員)

私は作業療法士です。うちの事業所は、各事業所に作業療法士、宇土の事業所には PT、OT、ST を配置しています。二本木には OT を 1 人、新屋敷のほうには OT を 2 人、都城にもあるのですが PT、OT を配置しています。加え、保育士、教員免許を持った者、そして看護師、ソーシャルワーカー、社会福祉士ですね。各専門職を配置して、それぞれのスキルを持って、うちの事業所としてはアセスメントをきちんと行い、検査も取ります。私は子ども総合療育センターにいたときに、JMAP 検査などもしていましたけども、うちのところだけですが、JMAP やフロスティック検査も行って、ST のほうは ST の発語の言語検査等を行って、お子さんのアセスメントをきちんと行った上で、療育をどう組みたてるかプログラムを作ります。宇土においては、市とは違い、圏域が違うんですけども、児童発達支援事業所と放課後デイで、発達障がいのお子さんをそのままスライドできるお子さんがいますので、継続的な支援もできるかなというふうに考えて対応させていただいています。新屋敷の方が重心の施設ですので、そちらはそちらで呼吸とかも含めて、しっかり対応させていただいています。二本木の方は、児発の方が発達障がいと肢体不自由児のお子さん、放課後デイは重心のお子さんですので、児発のお子さんを放課後デイで継続的にスライドできない施設になっていますので、それこそ、移行支援ということで、しっかりサポートブックを作って対応させてもらっています。施設としては、先ほど先生がおっしゃったように、それぞれの施設で、やっぱり理念が違いますし、療育という視点では皆同じなんでしょうけど、やり方や方法、評価も違うと思うんです。うちでは専門職をしっかり配置してアセスメントを行うというふうに対応させてもらっています。

(会長)

非常にたくさんの専門職を配置して、そこで療育型の徹底した形での児発、放課後等デイを考えられて事業をしていらっしやる訳ですね。ただ、必ずしもそうでないところも実際たくさんありますよね。

児童発達支援事業所の方は、色々な選択肢があって、それをむしろ保護者が選べる、子どもの状態によって選んでいくというところにポイントがあるのだらうと思うのですよね。なので、一元的に研修といっても、求めてくる施設や事業所によってタイプが違くと、ニーズも違ってくるのだらうと。ただ、1つ言えるのは、先ほどと今の話なんですけれども、学校側に提供できるような研修の内容とか、あるいは放課後デイのところから提供できるような、そういうニュアンスとか、学校よりもたくさんの人材を抱えるところなのですよね。また、作業療法士とか理学療法士とか、ST もそうなんですけど、そういったところを合わせていく形というのも、実はネットワークの中でもっと上手くできればいいのかなと思います。

時間があまりなくなってきましたので、他にご発言、これは伝えたいという方はいらっしやいますか。

(委員)

凄く心配していることがあります。利用できる事業所がどんどん増えていっているのですが、私は子どもさんの思春期を心配しています。お子さんは日替わりで色々な所に行かれて、そこで安心して過ごすとか、楽

しく過ごすことがメインで受けられていると思うのですが、元々場所が変わるのがとっても苦手なお子さんが、日替わりでいろいろ行く訳ですよ。祝日とかも利用されている方もいらっしゃる。で、お子さんたちは、やっぱり家族からの孤立感があるみたいです。

実は、3月で放課後デイをやっていたのですけど止めるんですね。逆行しているのですけど。私たちの仕事は何なのかと考えたときにですね、今、ずっと月ごとに保護者さんに学習会、例えば感情のコントロールとか、金銭管理についてとか、それから自分の苦手なことを人にどう伝えるかというようなことを枠組みでやっているのですけど、うちは送迎をやっていないので、ちゃんと今日は学習会ありますかと聞いて下さるのですよね。何が言いたいかというと、そこに保護者を巻き込むきちっとした何かをつくらないと、子どもさんは色々な所に行っているけど、保護者さんはそれに対して向き合うとか、子どもさんが家庭の中でどう過ごすかというところがすっぱり抜けちゃっているんですね。

東区の会議であったんですけど、何で俺たちをこういう施設にやったんだというふうに爆発した子がいるという話だったんですけども、何かこう一番大事なところで、北ネットの凄いなと思うところはその辺のところを小さいときから受けていらっしゃるというところですよ。やっぱり保護者さんの支援というところでの見直しというのにも必要なことではないかなと思っています。

(会長)

はい、ありがとうございます。やはり支援者同士が繋がってしまって、例えば支援者で子どもを回してしまうといったようなことは、これは地域という観点からいうと離れると思うんですよ。専門施設をたくさん巡っているからといって、地域に入っているとは限らない訳です。

要は、地域といったところをどう結び付け合っていくのかは保護者であって、ネットワークを作りながらもその中でどう保護者を育てていくか、本来保護者がむしろ専門機関等をつないでいく役割なので、それを生かし、支援者同士が繋がって置いて、保護者を含めて子どもも地域の中で育てていくだけの土台を、土壌を作っていくかということが非常に重要になるのかなというふうに思います。では、大谷先生。

(委員)

今おっしゃったこと、まさに私はそう思います。託麻台の PT、OT、ST などの訓練に来ておられて、他にも色々な療育にも行かれていて、お母さん達はさつき丸内先生もおっしゃったように、保護者が我が子とどう向き合うかが、お母さん自身の中に育っていないような方もいらっしゃいます。あるお母さんは、学校で特別支援学級にお世話になりながら、放課後デイの方にも行かれていて、放課後デイと学校との情報交換というか、子どもさんがどういう特性を持って、どういう視点でやっていくみたいところで、強い思いを持っておられた方がおられたのだけど、学校の先生と放課後デイが繋がってないみたいところが結構あって、それぞれ別箇にされているような方がおられます。託麻台病院の中で関係するスタッフにちょっと集まってもらってケース検討会もいたしました。学校の支援クラスの先生と、放課後デイの先生と私、私は医師として、それからうちのリハのスタッフも入り、お子さんの特性とそれの関わり方について、学校の先生の見方と放課後デイの先生の関わり方、そんなところの共通理解というか、地域の中で支援者の顔をつなぐということも非常に大事なんですけど、そのへんも必要になるなあと思いながら。そういった親御さんを一緒に巻き込んで、お子さんの特性を共通理解して、学校と放課後デイと同じ目標に向かって進んでいけるような支援の形になるといいのかなと思ったりもしています。

(会長)

ありがとうございました。他はいかがでしょう。時間が迫ってきておりますので。

本日、議論としてある程度出ましたのは、例えばネットワークを構築していったのはいいけれど、これをどう継続していくか、あるいは中身を充実していくかという点で、やはり人的なりソースをどう確保していくか、あるいは人的なりソースを確保するための財政的なバックアップ、ないしは行政のバックアップですね。既に子ども発達支援センターでも、ネットワークの担当者いらっしゃって、それぞれお手伝いをされていると思うのですが、やはりある程度、行政が最終的な部分ではするでしょうし、後はそれぞれのネット、目的とするもの、あるいは現状に合わせていただいて運営していくということなのかなと思います。ですので、子ども発達支援センターには、予算的な措置などかなり頑張っているようなことは恐らくあろうかと思えます。後は、実際問題として、ネットの中でどのようなことをやっていくか、今日は各ネットの報告の中から工夫点であるとか、実際の取り組みの情報交換ができたのではないかと思います。

私の方から全体を通して1つ気になったのは、各地域ネットが、地域の状況に応じて色々と動いていただく

のはいいんですけど、5つのネットが揃おうとしていますので、このネット同士の接続といいますか、情報交換であるとか、場合によってはおそらく合同で何かをすとか、研修を一緒に企画するであるとか、そういったこともできるのかなと思います。そういったことのできる場をどう作るかというのが、次のステップとして必要かなと感じているところです。ひょっとしたら、この「療育支援ネットワーク会議」といったような場で行われるのか、それとも別の機会にネットワーク同士の会合を作っていくのかといったことは、今後検討しなければならないのではないだろうかと思います。最後これはどうしても話したいというような、発言したいという委員の方いらっしゃいますか。

(委員)

すみません。熊本市における地域療育支援ネットワークの組織図があるかと思いますが、先ほど勝本先生から、児童発達支援センターの位置づけというところの明確化ということを見ると、組織図が包括的な支援のところと2次支援、1次支援の形になっているかと思いますが、児童発達支援センターや子ども発達支援センター、病院関係、施設が全部横並びになっています。県においては、子ども総合療育センターが拠点とあって、2次圏域に地域療育センターが各圏域に設置してあって、そして地域があるというようなシステムになっています。熊本市における支援の組織図というところの話を検討すべきなのかなと思います。その児童発達支援センターというものができると考えると、横並びはやはりどうかというふうに感じました。

(会長)

ネットワークは5つできたので、この5つの圏域のネットワークと、熊本市全体としての「ネットワーク型療育支援システム」をどう位置づけるかというのは、常に現状に合わせて改善といいますか、例えば、法的な根拠もどんどん変わっていきますので、事業所の数から変わっていきますので、それをまた、再検討したほうがいいのではないかというご意見かと思います。

これは次回の課題ということで、次年度以降さらに考えていただいてというところでもよろしゅうございますか。それでは時間となりましたので、課題のまとめ等は、また事務局の子ども発達支援センターで行っていただいて、またご報告いただければと思います。このようなネットワーク会議を開催する機会も、実際予算的にも厳しくなっているとうかがっております。ただ、貴重な場だと思います。各ネットを含めて、多職種の方からご意見いただけるという場が今後必要ではないかなと思っておりますので、どうぞ予算の確保等お願いいたします。では、司会をお返しいたします。

5 閉会

(事務局)

略